

持続的発展の礎を

日合協東北

日本アスファルト合材協会東北連合会は、仙台市のホテルモントレ仙台で2025年度通常総会を開いた。任期満了に伴う役員改選で野口秀典会長を再任したほか、合材の安定供給に向けた対応などを柱とする25年度事業を決めた。

野口会長は、創設40周年の節目を迎え、関係者に謝意を示す一方、24年度の合材製造数量は統計開始以来最少となり、急激な落ち込み



から過去3年間に8工場が閉鎖したことを報告した。その上で「道路舗装に向けられる予算は厳しいが、これまでも前向きに柔軟に対応し、幾多の困難を乗り越えてきた会員の努力に応えるため、近未来への備えを続け、持続的発展の礎を確かなものとしたい」と語った。

議事では24年度の事業活動と収支・決算を報告したほか、今年度事業計画などを決めた。業務委員会は、アスファルト混合物の設計単価や各資材の単価状況の調査分析、関連業界との意見交換会の開催、再生・循環利用に向けた資源確保などに努める。技術委員会は、事前審査制度への具申や諸問題の解決、安全対策と労働環境の整備、各種講習会・研修会の実施などに取り組む。

この日は、40周年記念事業として後藤完司山形県アスファルト合材協会会長（山形建設会長）を功労者表彰したほか、フリーアナウンサーの石川顯さんによる特別記念講演もあった。

（6・6）